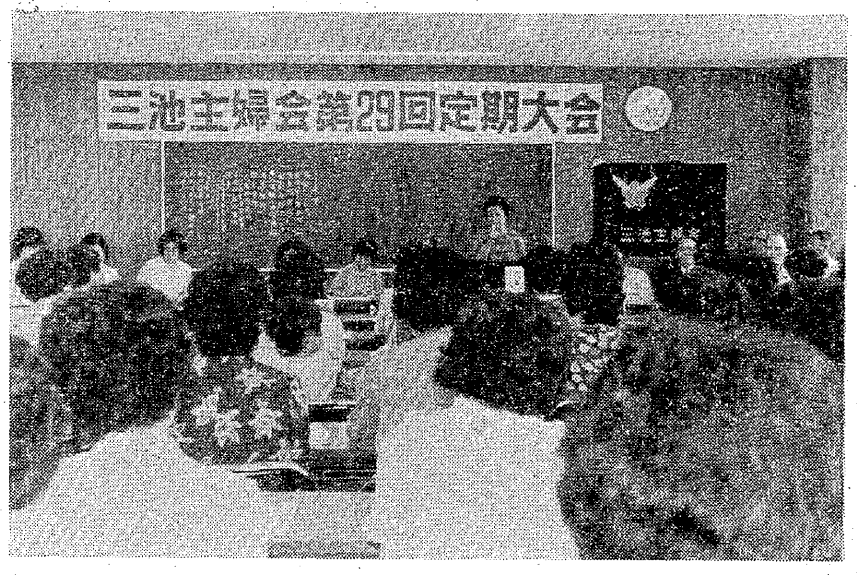
第1187号　第三種郵便物認可　みいけ　(毎月2回 1日16日)　1982年9月16日(木)　(六)

新たな運動の前進誓う

三池主婦会第29回定期総会開く

八月二十九日午前九時三十分から労働金庫大牟田支店二階ホールで、三池主婦会第二十九回定期大会が開かれ、島会長のあいさつ、来賓あいさつ、経過報告、決算・監査報告のあと一九八二年度の運動方針と予算、新役員を決定し、新たな活動に取り組むことを誓い合いました。



総会では、議長団選出のあと島子元主婦会長からの祝電が披露されました。

経過報告、決算・監査報告がそれぞれ承認されたあと新年度の運動方針が提案され、討議のあと承認されました。

新年度運動方針の骨子

①生活を守るたたかい、②命と健康を守るたたかい、③統一活動④子供を守る運動、⑤組織強化、⑥働く婦人としての運動、⑦平和と民主主義を守るたたかい、⑧年間行事(敬老会、主婦会結成三十周年記念集会ほか)など。

新年度の役員

(敬称略)

会長	島　文枝	(西ブロック)
〃	合瀬幸江	(四山ブロック)
事務局長	平川弘子	(東ブロック)
会計	東　敬子	(東ブロック)
教宣部長	藤田美代子	(四山ブロック)
組織部長	斉藤清子	(三川ブロック)
福祉部長	片山さと子	(西ブロック)
監査	塚本栄子	(三川ブロック)
×	×	

ご出席の皆さんご苦労さまです。また、来賓の皆さまにはご多忙のところご出席いただき、ありがとうございます。常に私たちの運動へのご指導とご尽力をいただき、心からお礼を申し上げます。

私たちは命とくらし、平和を守るための運動に取り組み春闘その他でも組合とともに活動してまいりました。

鈴木内閣と自民党政府の福祉切り捨て軍拡推進という情勢の中で、資本の合理化もき びしく炭鉱労働者のくらしはますます苦しくなっています。

北炭夕張新鉱では、昨年十月に火攻めで九十三人が殺され、追い討ちのように閉山提案が出されるなど苛酷な状況にあり、三池でも七月二十九日に有明鉱で死亡災害が起こり、重傷もあとをたちません。

今年は主婦会結成三十周年を迎えますが、三池労組とともに家族ぐるみで展望を見い出すために、運動方針のよりよい討議をふまえ、主婦会運動を前進させましょう。

島会長のあいさつ (要旨)

命とくらし、平和と民主主義を守るために八三政治決戦です。この総会では全員で力いっぱい取り組まねばなりません。この総会はこのような重大な時期に開かれましたが、新たな決意を固め前進するための大切な場です。

写真は、主婦会定期総会であいさつする総評主婦の会今吉会長。

短歌　夕張閉山提案

十二分会(三川)　町　佳郎

沖遠く干潟に遊ぶ子のみたり何とるか立ちてかごみて黄声あげつつ
ねそべりて蝉の声聞くまひる間を子らはいつしか寝ねにたりけり
櫟野なるわが父母の墓に詣できぬうから伴い暑き陽の中
好みいし酒そそぎやるびんごとにのみどうるおせとわが語りつつ
流れくる台風情報聞きいつつ懐中電灯など揃ゆる妻の
雷も伴い来るかとみたり子の台風情報におびえつつ問う
落ちきたる雨うとみつつ夕暮れの家々をまわる監査請求の署名簿持ちて
朝夕の冷えは日々増しゆけど陽のさせばいまだ木群(こむら)に蝉のしき鳴く
陽の落ちて余熱のこれる裏山に法師蝉いくつ鳴き出だしたり
九十三人の命奪いし夕張もいよよ閉山に追い込まれたり
仲間らのあまたの金も再建に注ぎしが労務債は百二十三億にふくれぬ
かつて職追われし三池の仲間に重なりくる閉山後の夕張二千余名の顔
閉山に追い込みし者らを許すまじひたに励みこし仲間らのため
組織の命運かけて闘い抜く閉山反対の決議なりたり
閉山の反対闘争始まりぬハンスト二四スト抗議集会

女性の目

まだまだ頑張ります

中央分会　西村温子

主婦会三一沖縄)交流集会が行われ、熊本地区より約五十人の人が参加しました。

十八年、全通三十五年が私の履歴です。主婦会の方は、昨年夫の定年で卒業できたけど、頑張っておられる諸先輩をまねて席だけ置かせてもらっています。どうしても本職の方に重点がかかります。

さて、八月二十日から二十二日にかけて、反原発の闘いで全国的にも注目されている高知県窪川町で、全通青年婦人(九州、四国、キャンプファイヤーを囲んで徳島の阿波踊りなどが行われました。

大部分が若い人で、ハードスケジュールでしたが、年の差を感じなく最後まで頑張れたのは、日頃鍛われているおかげかと思っています。体育祭の種目の中には、地評の運動会で取り入れてもいいのがあったと家で話をしました。

青年婦人交流集会に参加して、まだまだ頑張らなくちゃーと思っています。

「三池にまなぶ会」で参加された皆さんを受け入れて交流はしましたけど、外に出てこういう交流にも参加したのは始めてで、バスと船で十時間もの長い旅でしたが、それも苦にならないほどの素晴らしい体験でした。

二日目には各テーマにもとづいて分散会、体育祭、文化祭、夜は

中原書記長が訪中へ

福岡県評の第二次訪中団が、九月二十三日から十月七日まで武漢市総工会の招きで、北京・武漢などを訪れ工場見学、総工会との懇談、労働者との交流などをすることになりました。

訪中団は福岡県評岩崎隆次郎団長など五人で、中原書記長がその一員として選ばれたもので、一行の秘書長をつとめます。

〈生活メモ〉　ニセモノ日本酒

味もコクも合成

やがて熱かんの恋しい季節ですが、「あなたはニセモノの酒を飲んでいる」といわれたら、一度に酔いもさめます。

日本酒は本来、米、米コウジ、水だけを原料にしてつくられてきました。大戦中に清酒を水とアルコールで薄め、ブドウ糖や乳酸、コハク酸などを添加して味とコクを出す方法が開発されて以来、戦後も国の政策で清酒を三倍に薄めた「三倍増醸」が今日まで続いています。

日本酒がまずくなった理由は他にもあります。日本酒のビンのラベルに「醸造用アルコール」と書いてありますが、酒本来のアルコールとは関係のない「工業用アルコール」です。これは砂糖きびから砂糖をとった後のしぼりかすを蒸溜したもの。ちなみに日本酒に加えられたアルコールの量は、一本につき四十六%。これでは「生一本」が泣きます。

これだけでは辛いので「醸造用糖類」の名でブドウ糖や水あめを添加しています。さらに、まずくなった酒をうまくするため、数十種の添加物を混入します。たとえばグルタミン酸ソーダ(化学調味料)、乳酸、コハク酸などです。これが悪酔いの原因ではないかと見られます。

「くらしの歳時記」　9月

心にひびはいらせまい

神山恵三

いろいろと健康に関する本や読みものが出されていて、世は正に健康ブームという状況である。

何を食べるとよい、どのような運動をするとよい、どんな住い方をするとよい等々いろいろと方法がのべられているが、健康を保っていく上でいちばん重要なことは神経系の健康である。

神経系の健康にとって最も重要なことは、あすへの楽天的な展望を持っていることである。

貝原益軒の養生訓は健康法の原典のような本であるが、その中の一節に「もし、わが身をおもんじて、少なる髪爪まで、そこないやぶらざんとせば大節にのぞんで命をおしみ、義を失なふ……」とある。

余りに、神経質に健康、健康とあくせくとすると人生の本質を失う、といっているのであろう。

こういう世の中である。どこが義を守るために八三政治決戦に自分のからだに不健康のところがあるのは普通であろう。いわば誰もがひびの入ったツボを抱いているようなものである。ていねいに使っていけば、それなりの寿命を保っていけるはず。余りに、そのツボのひびにのみ心を奪われることなく、しかも乱暴に取り扱うことなく、堂々とそのひびの入ったツボを抱いて人生を歩いていこう。

■九月に入ると季節は、人びとに何となくわびしい気持を起こさせる。高血圧の人、中風で手足が不自由の人、白内障がすすんできた人、糖尿病、リウマチに苦しむ人——ひびの入ったツボを抱いている人は多い。だが、心にはひびをはいらせまい。(かみやま・けんぞう＝生気象学者)　【連合】

× ×